

東京文化発信プロジェクト 平成22年度事業の評価について

成果

- 伝統文化、演劇、音楽、美術・映像など、多様な分野で事業を展開し、芸術文化の創造発信、芸術文化を通じた子供たちの育成、東京における多様な地域の文化拠点の形成という3つの目標実現に向けて、着実に成果を挙げた。
- フェスティバル分野では、フェスティバル/トーキョー、恵比寿映像祭が、国内外でアート・フェスティバルとして認知され、創造発信のプラットフォームが形成されつつある。
- キッズ分野では、キッズ伝統芸能体験、パフォーマンスキッズ・トーキョーが、子供たちの本格的な体験型プログラムとして高い評価を得ている。
- アートポイント計画は、着実に地域的な拡がりを見せた。事業運営を担う人材を育成する講座等を実施するなど、戦略的な取組ができている。

課題

- 東京文化発信プロジェクト全体としては、プログラムは充実してきているが、海外に十分に認知されるだけの発信力は、まだ、不足している。
- フェスティバル分野では、国内外の認知度が高まった事業がある一方、伝統芸能公演、音楽事業などは、まだ国内での存在感を高めていく段階にとどまっている。
- キッズ分野は、創造体験を必要とする子供たちにとって充実した内容のものを提供できているが、事業の質を維持しつつ、より多くの子供たちが参加できるようバランスを考える必要がある。
- アートポイント計画は、より多くの地域拠点づくりと事業を支える人材育成が重要であるが、長期的にみると、新たな拠点づくりを進めるためにも、地域に根付いた事業がより自立的に運営される仕組み作りが必要である。

今後の取組

- 文化発信プロジェクト事業も3年を経過したことから、個々のプログラムについても見直しを行い、スクラップ&ビルドにより全体の再構築を図るなど、さらに効果的な事業展開ができるよう取り組んでいく必要がある。
- 通年で多様な事業を展開しつつも、プロジェクト全体の発信力を高めるため、春や秋に集中的に実施する期間を設定するなど、注目度を高める工夫を図る。
- 国際招聘プログラムや国際会議の開催により、国際ネットワークの強化を図るとともに、WEBの充実などにより、国内外への情報発信力を高めていく。
- フェスティバル分野の伝統芸能、音楽事業については、これまで以上に創造性の高い、発信力のある事業展開を目指し、プログラムの再編を行う。
- キッズ分野では、これまでの実践のノウハウを活かしながら、学校等との連携を深めるなど、創造体験の機会を増やす方策を検討していく。また、体験事業の担い手の育成や、他団体との連携などを通じて、さらなる普及拡大に向けた方策も検討していく。
- アートポイント計画では、それぞれの地域の特性を活かして、共催団体のより主体的な運営が可能となるよう支援していくとともに、そうした事業展開を通じて、地域の活動を支えるコアとなる人材の育成に重点を置いていく。